

2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

2025年11月13日
ステラケミファ株式会社
(証券コード：4109)

目次

【決算説明資料】

・ 業績ハイライト	P. 3
・ 決算概要	P. 4 – 12
・ 業績予想	P. 13 – 15
・ 株主還元	P. 16 – 17

【参考資料（会社概要・事業紹介）】

・ 会社概要	P. 19
・ 主要子会社および関連会社	P. 20
・ 事業紹介	P. 21 – 36

業績ハイライト

【2026年3月期2Q累計実績（前年同期比）】

- ◆ 半導体部門や一般製品部門のフッ化スズは、原料価格上昇に伴う価格転嫁実施により採算改善
- ◆ 仕入商品部門は売上高減少も、電子材料部門等の出荷量増加が増益に寄与

【通期見通し】

- ◆ 業績予想（2025.5.9公表）の変更なし

※エネルギー部門の濃縮ホウ素（ボロン10）において海外の新規原子力施設向け大口案件が2Qに出荷されたこと等により、上期進捗（対業績予想 営業利益61%、経常利益63%）は順調であるものの、下期は主要原材料である無水フッ化水素酸の市況価格が上昇傾向であること等を踏まえた結果、業績予想は据え置き。

決算概要

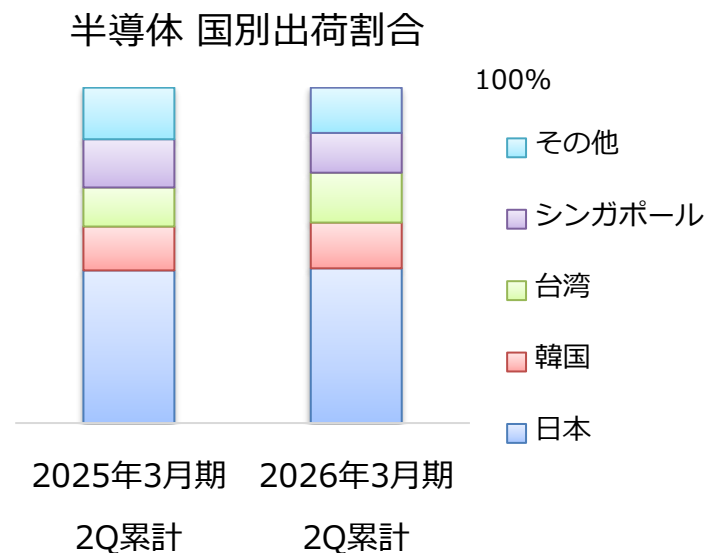
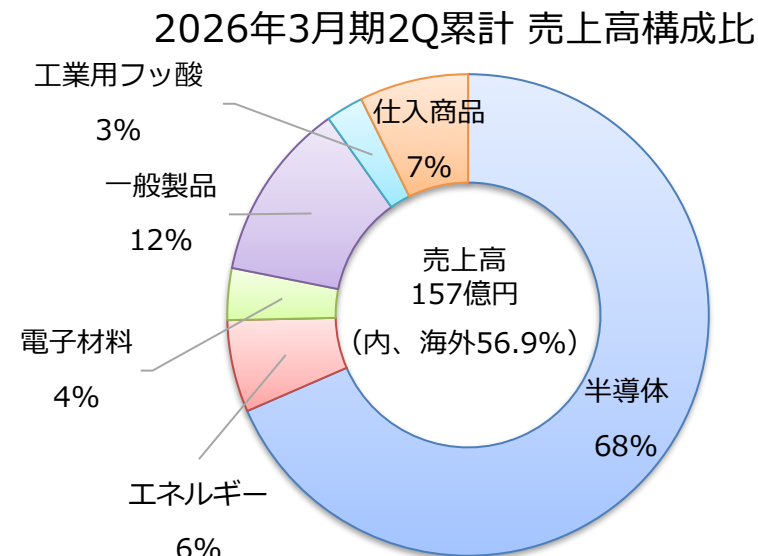
(単位：百万円)	2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計	増減	増減率(%)
売上高	18,160	18,157	△3	△0.0
売上総利益	4,145	4,382	237	5.7
営業利益	2,180	2,499	318	14.6
経常利益	1,965	2,473	508	25.9
親会社株主に 帰属する中間純利益	1,667	1,704	37	2.2
1株当たり 中間純利益(円)	138.56	144.36		

セグメント別 売上高・営業利益

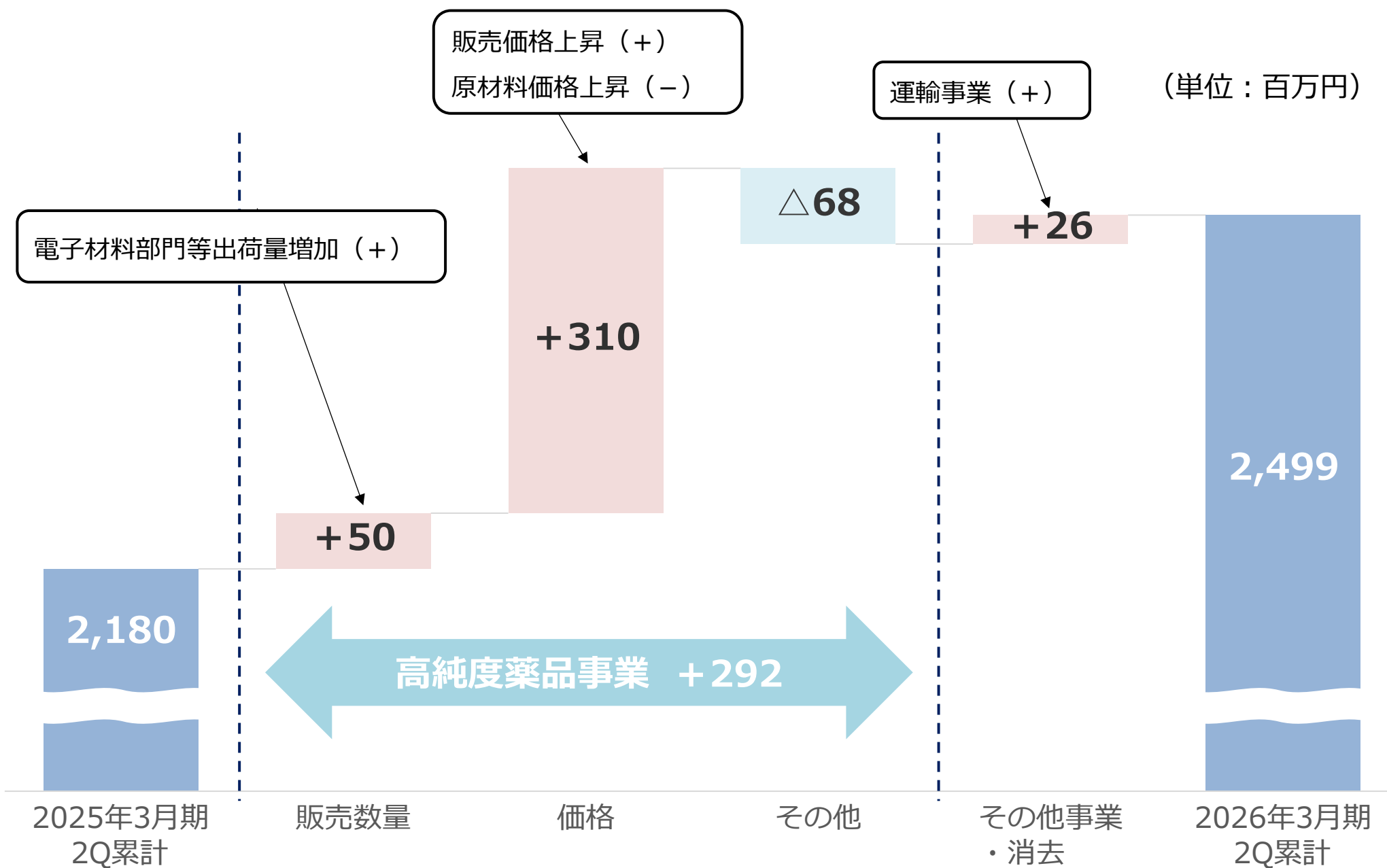
(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計	増減		2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
高純度薬品	15,826	15,797	△29	△0.2	1,790	2,083	292	16.3
運輸	2,276	2,316	39	1.7	392	414	22	5.8
その他	56	43	△13	△23.8	6	9	2	40.5
消去又は 全社	-	-	-	-	△8	△8	0	-
合計	18,160	18,157	△3	△0.0	2,180	2,499	318	14.6

高純度薬品事業 売上高（内訳）

（単位：百万円）	2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計	増減	増減率 （%）
半導体	10,656	10,816	160	1.5
エネルギー	897	977	80	9.0
電子材料	348	548	200	57.6
一般製品	1,899	1,902	2	0.1
工業用フッ酸	330	397	66	20.2
仕入商品	1,694	1,155	△539	△31.8
合計	15,826	15,797	△29	△0.2

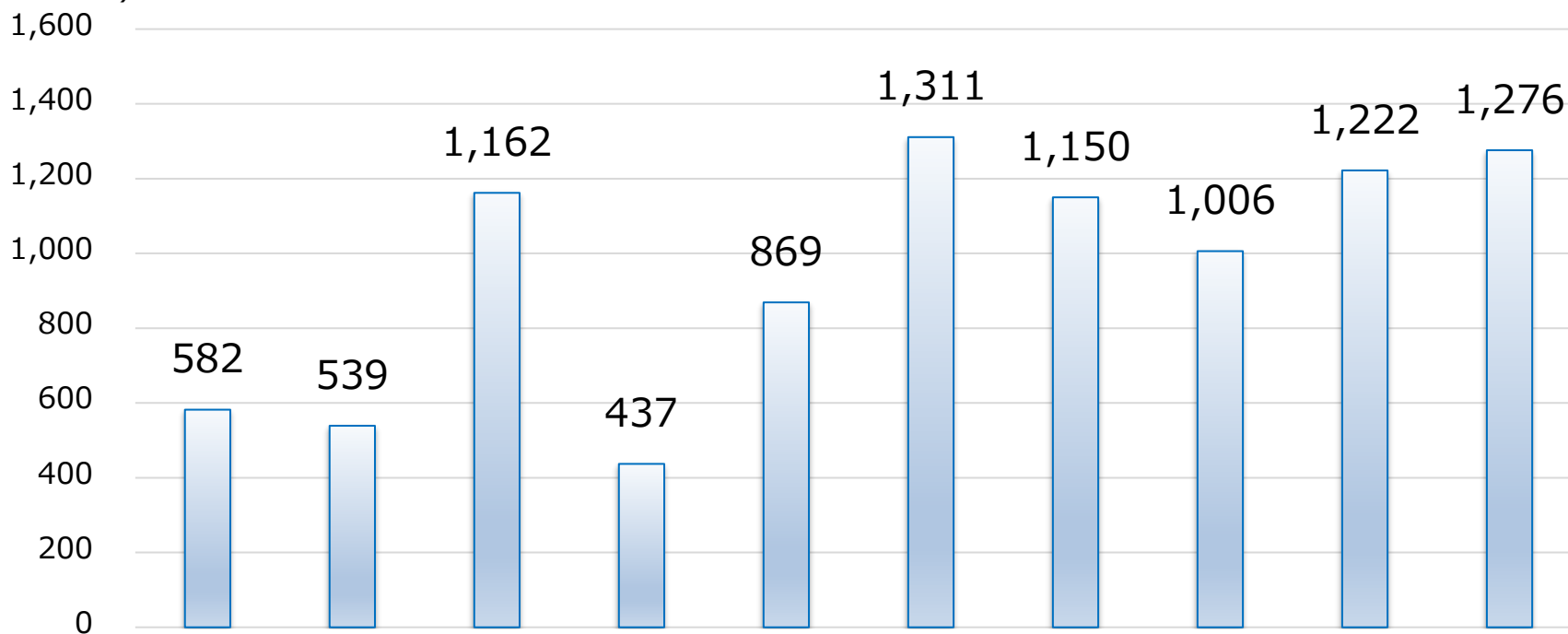


営業利益増減分析（前年同期比）



営業利益推移

(単位 : 百万円)

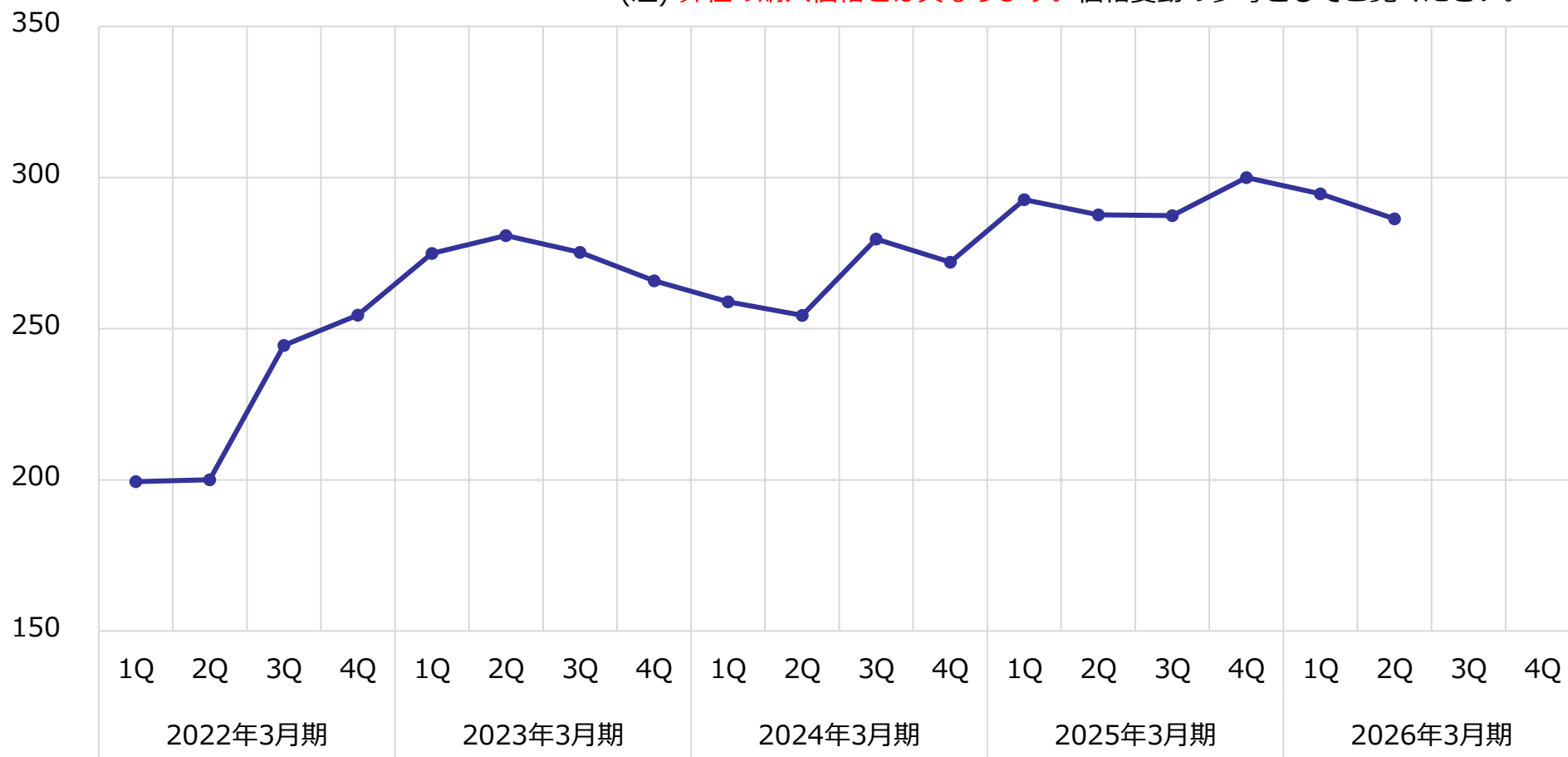


	2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	7,298	7,199	8,813	7,134	8,755	9,405	8,491	9,636	8,795	9,361		
営業利益	582	539	1,162	437	869	1,311	1,150	1,006	1,222	1,276		
営業利益率	8.0%	7.5%	13.2%	6.1%	9.9%	13.9%	13.6%	10.4%	13.9%	13.6%		

フッ化水素酸「輸入貿易統計価格（中国）」推移

(円/kg)

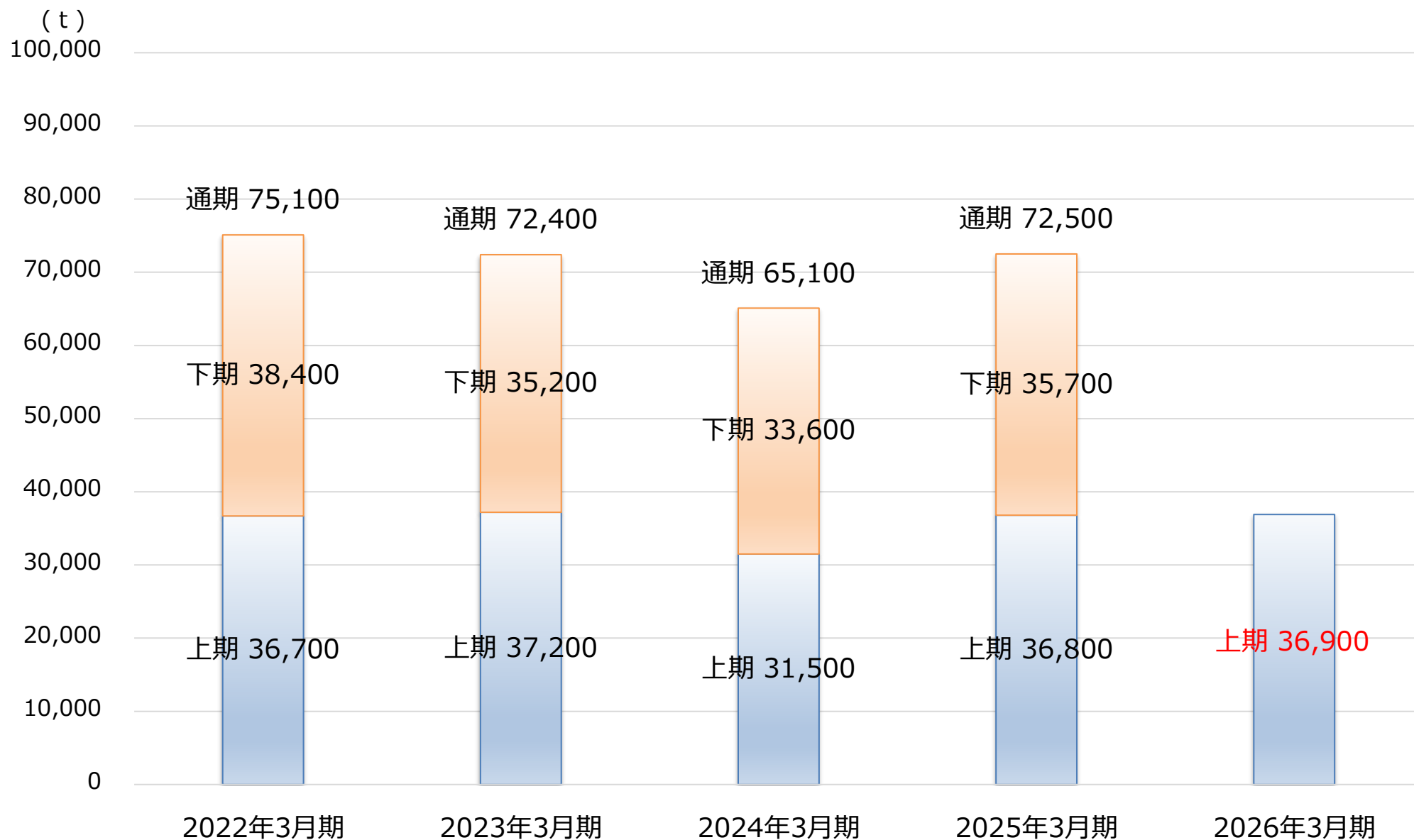
(注) 弊社の購入価格とは異なります。価格変動の参考としてご覧ください。



(単位 : 円/kg)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 2Q累計
平均価格	225	274	266	292	290

出所 : 財務省「財務省 貿易統計」(<https://www.customs.go.jp/toukei/info/>)より弊社作成

高純度フッ化水素酸（半導体）出荷量推移



貸借対照表

(単位：百万円)	2025年3月期 期末	2025年9月末	増減	増減率(%)
資産	60,725	60,871	146	0.2
現預金	16,643	16,755	111	0.7
営業債権	7,122	7,788	665	9.3
棚卸資産	5,618	5,371	△246	△4.4
有形固定資産	26,658	27,078	420	1.6
無形固定資産	42	39	△2	△6.5
負債	15,732	15,640	△92	△0.6
営業債務	4,013	3,465	△548	△13.7
有利子負債	5,560	6,407	846	15.2
純資産	44,992	45,231	238	0.5
自己資本	44,752	45,014	262	0.6
負債純資産	60,725	60,871	146	0.2

キャッシュ・フロー計算書 設備投資額、減価償却費、研究開発費

(単位：百万円)

(1) キャッシュ・フロー計算書

	2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,042	3,049
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,361	△2,406
フリーキャッシュ・フロー (営業CF + 投資CF)	△319	643
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,672	△190
現金及び現金同等物の増減額 (△：減少)	△1,559	130
現金及び現金同等物の期首残高	15,846	16,203
現金及び現金同等物の期末残高	14,286	16,333

(2) 設備投資額、減価償却費、研究開発費

	2025年3月期 2Q累計	2026年3月期 2Q累計
設 備 投 資 額	1,281	1,871
減 価 償 却 費	1,321	1,360
研 究 開 発 費	300	304

業績予想

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	増減率(%)
売上高	36,288	36,000	△288	△0.8
営業利益	4,338	4,100	△238	△5.5
経常利益	4,161	3,900	△261	△6.3
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,892	2,700	△192	△6.7

1当期純利益(円)	241.00	228.76	△12.24
配当金額(円)	170	170	—
ROE(%)	6.5	6.1	△0.4

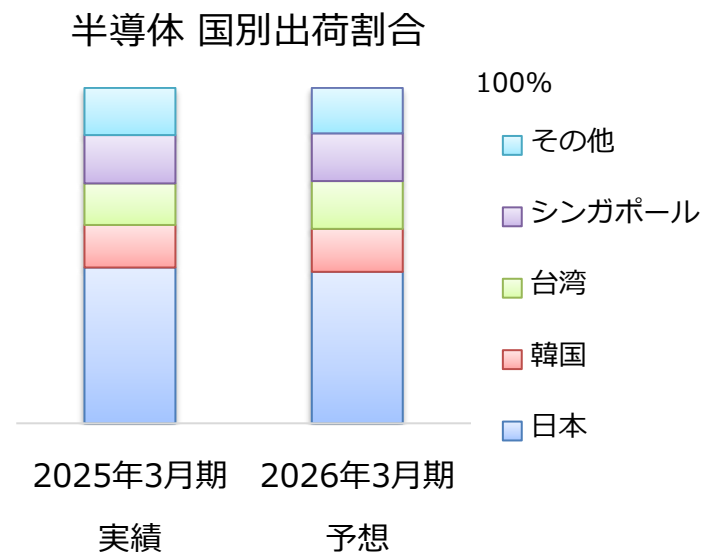
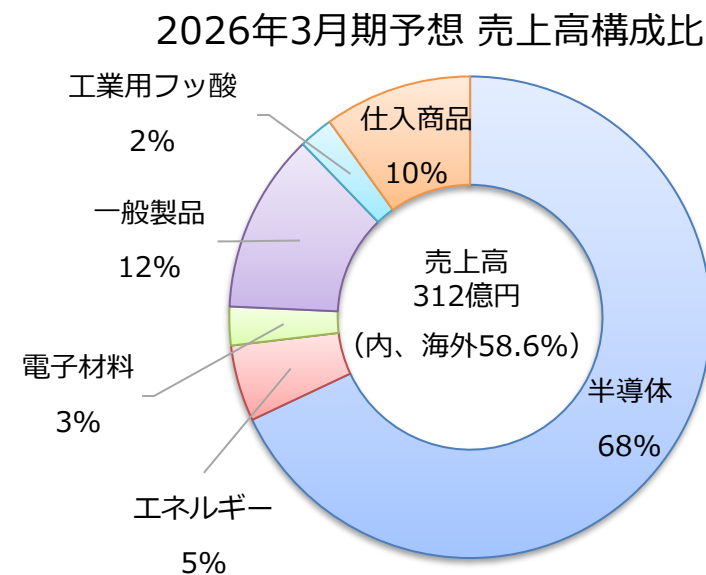
設備投資額	3,924	7,600	3,675	93.6
減価償却費	2,812	2,850	37	1.3
研究開発費	597	750	152	25.5

セグメント別 売上高・営業利益予想

	売上高				営業利益			
	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減		2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	
(単位：百万円)			金額	%			金額	%
高純度薬品	31,535	31,250	△285	△0.9	3,546	3,390	△156	△4.4
運輸	4,636	4,600	△36	△0.8	794	720	△74	△9.4
その他	116	150	33	28.9	18	10	△8	△45.0
消去又は 全社	—	—	—	—	△20	△20	0	—
合計	36,288	36,000	△288	△0.8	4,338	4,100	△238	△5.5

高純度薬品事業 売上高予想（内訳）

（単位：百万円）	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	増減率 （%）
半導体	20,992	21,250	257	1.2
エネルギー	2,051	1,600	△451	△22.0
電子材料	843	810	△33	△4.0
一般製品	3,613	3,770	156	4.3
工業用フッ酸	718	720	1	0.3
仕入商品	3,317	3,100	△217	△6.6
合計	31,535	31,250	△285	△0.9



株主還元

【2026年3月期～2028年3月期における株主還元方針（2025/5/9 公表）】

総還元性向	3年間累計で総還元性向(注1)100%以上を目標とする(注2)
配当金	1株当たり年間170円を下限とする

(注1) 2026年3月期～2028年3月期における株主還元の合計額を、同期間における親会社株主に帰属する当期純利益の合計額で除した比率

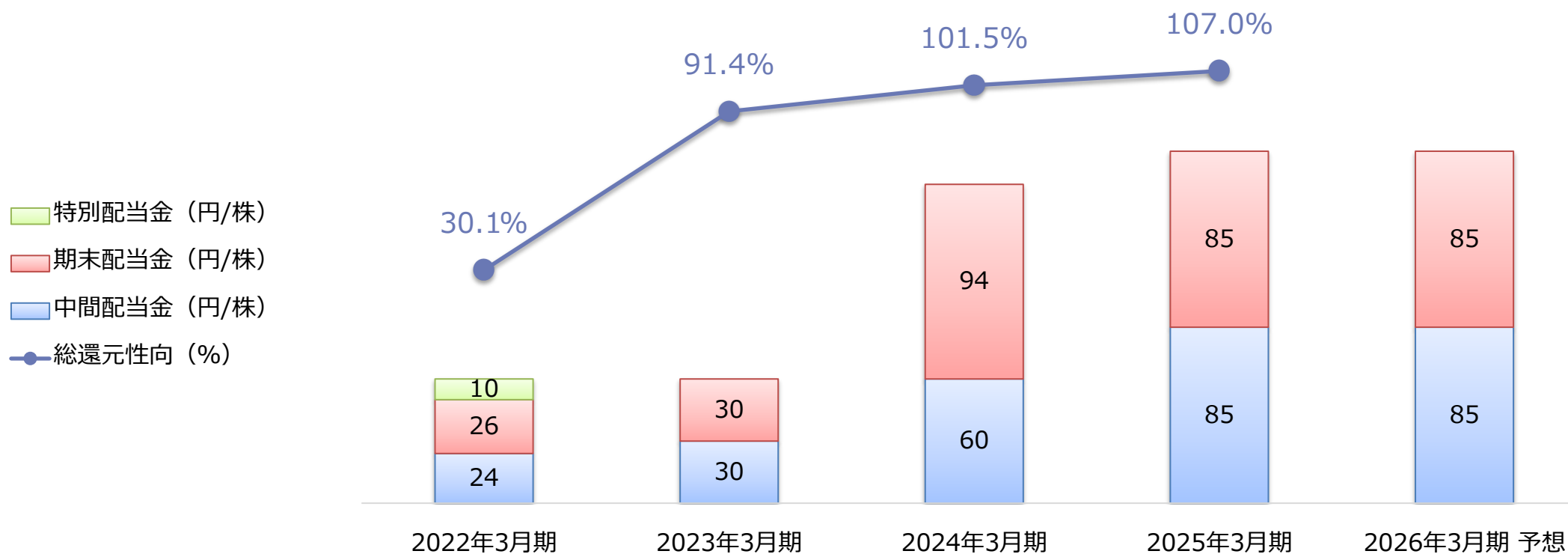
(注2) ただし、特別な損益等の特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度につきましては、その影響を考慮して、株主還元額を決定いたします。

株主還元

【配当実績および予想】

◆ 2025年3月期 ● 年間配当 170円／株

◆ 2026年3月期 ● 年間配当予想 170円／株（2025年5月9日公表）



参考資料

(会社概要・事業紹介)

会社概要

(2025年9月30日 現在)

商 号	ステラケミファ株式会社 (STELLA CHEMIFA CORPORATION)	
所 在 地	大阪府大阪市中央区伏見町四丁目 1 番 1 号 明治安田生命大阪御堂筋ビル10階	
創業／設立	1916 (大正 5) 年 2 月	／ 1944 (昭和19) 年 2 月
資 本 金	48億2,978万2,512円	
代 表 者	代表取締役社長 橋本 亜希 代表取締役副社長 (生産統括) 坂 喜代憲	
URL	https://www.stella-chemifa.co.jp/	
従業員数	299名	
営業部拠点	大阪営業部	(大阪府大阪市中央区)
	東京営業部	(東京都千代田区)
生産拠点	三宝工場	(大阪府堺市堺区)
	泉工場	(大阪府泉大津市)
	北九州工場	(福岡県北九州市八幡西区)
研究開発拠点	次世代材料研究棟 (大阪府堺市堺区：三宝工場敷地内)	

主要子会社および関連会社

国内（3社）

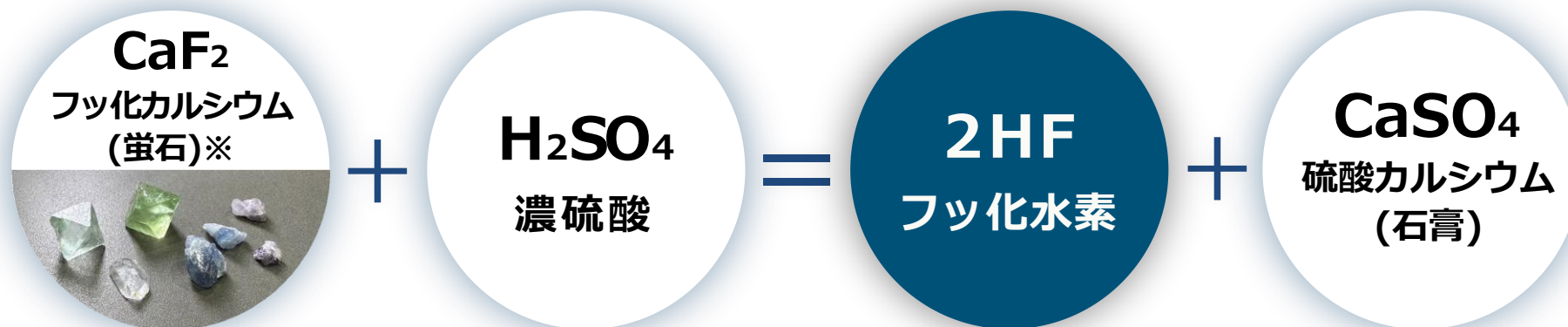
運 輸 事 業	ブルーエクスプレス株式会社	大阪府 堺市 堺区
そ の 他 事 業	ブルーオートトラスト株式会社	大阪府 堺市 堺区
メディカル事業	ステラファーマ株式会社	大阪府 大阪市 中央区

海外（6社）

高 純 度 薬 品 事 業	STELLA CHEMIFA SINGAPORE PTE LTD	シンガポール
運 輸 事 業	STELLA EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTD	シンガポール
高 純 度 薬 品 事 業	星青国際貿易（上海）有限公司	中国
運 輸 事 業	青星国際貨物運輸代理（上海）有限公司	中国
高 純 度 薬 品 事 業	浙江瑞星フッ化工業有限公司	中国
高 純 度 薬 品 事 業	衢州北斗星化学新材料有限公司	中国

事業紹介

フッ化水素の製造とその用途



※蛍石は大きく5つの純度グレードに分けられており
半導体用途には97%以上の純度を持つ高品位な蛍石が求められる。

コンクリート材料等

ステンレス等の
表面処理

代替フロン等の
原料

当社の独自技術による反応・精製

半導体用
エッチング・
洗浄用薬液

各種二次電池の
材料

原子力・
医療用途向け
濃縮ウラン

反応触媒
オーラルケア製品
など

事業紹介

高純度薬品事業

半 導 体	半導体や液晶パネルの製造工程におけるエッチング・洗浄用薬液の製造・販売
エ ネ ル ギ ー	原子力関連施設やがん治療（BNCT）で使われる濃縮ホウ素（ボロン10）の製造・販売
	各種二次電池の性能を向上させる材料の開発
電 子 材 料	タンタルコンデンサーで使われるタンタル製造助剤の製造・販売
	カメラ・ステッパー用レンズ原料などの製造・販売
	少量生産段階の研究開発品の製造・販売
	LEDに使われる蛍光体製造用原料や蛍光体の製造・販売
一 般 製 品	様々な化学品や医薬品の中間体製造で使用する触媒の製造・販売
	虫歯や歯肉炎の予防効果を持たせるための歯磨き用添加剤の製造・販売
	その他のフッ素化合物の製造・販売
工 業 用 フ ッ 酸	ステンレスの酸洗浄や液晶パネルの薄化などに使用されるフッ酸の製造・販売
仕 入 商 品	仕入商品の販売

事業紹介 ～半導体～

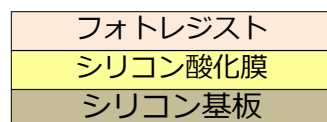
超高純度化技術

- ・ 超精製技術・超清浄技術により、不純物レベルを1ppt（1兆分の1）以下にコントロール
- ・ 超高集積回路に対応できる超高純度薬液を量産化

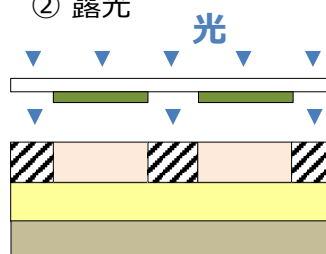
超高純度 フッ化水素酸	・ フッ化水素酸(HF)は、シリコン酸化膜をエッチング除去できる唯一の薬液 ・ 半導体製造プロセスには不可欠で超高純度が要求される薬液 ・ 特に希フッ酸は、数多くの半導体プロセスで使用
超高純度 バッファードフッ酸	・ フッ化水素酸（HF）とフッ化アンモニウム（NH_4F）の混合水溶液 ・ 主に絶縁膜のエッチングや洗浄等の工程で使用 ・ 十数Å/minから数千Å/minの広範囲なエッチレートを持つ薬液が製造可能

使用例（フォトリソグラフィ工程）

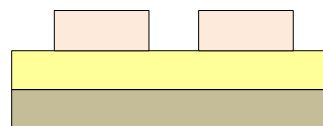
- ① シリコンウエハに
フォトレジスト塗布
(加熱乾燥)



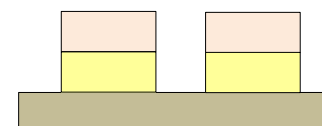
- ② 露光



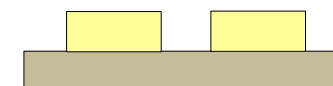
- ③ 現像



- ④ エッチング
(フッ酸系薬液でシリコン
酸化膜を溶かす)



- ⑤ フォトレジスト剥離



事業紹介 ～半導体～

当社製品純度

製品グレード

SA

【製品純度】

9 N (99.99999999%)

【不純物濃度】

10億分の1以下

※ 1 ppb (0.0000001%)以下

製品グレード

SA-X

【製品純度】

10N (99.99999999%)

【不純物濃度】

100億分の1以下

※ 0.1ppb (0.0000001%)以下

製品グレード

SA-XX

【製品純度】

11N (99.99999999%)

【不純物濃度】

1000億分の1以下

※ 0.01ppb (0.00000001%)以下

製品グレード

SA-XXX

【製品純度】

12N (99.999999999%)

【不純物濃度】

1兆分の1以下

※ 1ppt (0.000000001%)以下

世界最高レベルの高純度品へ



事業紹介 ～半導体～

当社製品例

製品名 (半導体関連)	説 明
超高純度フッ化水素酸	主に半導体の製造におけるシリコンウェハのウェットエッチングおよびウェット洗浄に使用される薬液
超高純度バッファードフッ酸	超高純度フッ化水素酸とフッ化アンモニウム溶液の混合水溶液
BHF (バッファードフッ酸)	50%フッ化水素酸と40%フッ化アンモニウム水溶液を任意の配合比で混合した薬液
LL BHF	BHF（バッファードフッ酸）に界面活性剤を添加し、様々な機能性を有した薬液
LAL BHF	フッ化アンモニウム濃度を通常の約半分の17～20%と最適化し、長寿命化などのメリットを実現した界面活性剤入りのBHF（バッファードフッ酸）
HSN BHF ※研究開発品	LAL BHFと同様、長寿命化などメリットを有しながら、かつ、シリコン窒化膜に対して高い選択比でシリコン酸化膜エッチングできる薬液

事業紹介 ～半導体～

半導体用高純度フッ化水素酸の生産能力

北九州工場



(福岡県北九州市)

30,000 t / 年産

三宝工場



(大阪府堺市)

65,000 t / 年産

STELLA CHEMIFA
SINGAPORE



(シンガポール)

10,000 t / 年産

105,000 t / 年産

フッ素化合物の総合メーカーとして、
製造から充填まですべて自社の技術で行っています。

事業紹介 ～エネルギー～



濃縮プラント
(大阪府泉大津市)

濃縮ホウ素（ボロン10）とその特徴

- 天然ホウ素（ボロン）はボロン10(20%)・ボロン11(80%)が同位体として存在
- ボロン10を99%以上に濃縮する技術を開発
- 濃縮ホウ素の大量生産技術を国内で初めて確立(2000年)
- ボロン10は、中性子吸収能力が極めて高い性質があり、濃度を高めることでさらにその吸収能力が向上する

生産能力

品目		生産能力
濃縮ホウ素	^{10}B	6 t / 年産

(※次の品目に換算した場合)

濃縮ホウ酸	$\text{H}_3^{10}\text{BO}_3$	36 t / 年産
-------	------------------------------	-----------

事業紹介 ～エネルギー～

濃縮ホウ素化合物の用途

- 一次冷却水に溶かし込んで、加圧水型原子炉の余剰反応度制御
- 特定重大事故等対処設備の水源
- 使用済み核燃料の輸送・貯蔵容器の中性子吸収材
- 原子炉の制御棒の材料や、使用済み核燃料プールのラック材
- がん治療薬剤の原料（BNCT：ホウ素中性子捕捉療法）

濃縮ホウ酸の利用メリット

① 原子炉内の腐食環境の改善

天然品と比較して、1/5で必要¹⁰B濃度が確保できる。
低濃度での運転が可能となり、設備での腐食が低減できる。

② ホウ酸水の維持保管コスト低減

ホウ酸水の溶解維持のため加熱・保温が必要。
濃縮ホウ酸であれば濃度を下げることが可能であり、保温問題が低減される。
また、貯蔵タンクも小さくできる。

③ より確実に

緊急停止時にはより確実な制御が可能であり、また、ホウ酸は人体や環境に有害であるため、全体のホウ酸量を低減できることはメリットである。

事業紹介 ～一般製品～

フッ化スズ

- F D AによるO T C虫歯予防薬の原薬である『フッ化スズ』のG M P査察が完了し、正式な公認を取得済み。
- G M P対応製品として欧米を中心に『フッ化スズ』を販売。



泉工場製造棟 （大阪府泉大津市）



※歯の健康や美観への関心が強い欧米向けを中心に、
需要を見込んでいます。

⇒ 歯磨き用以外の新たな用途も開拓中（例：蹄殺菌）

事業紹介 ～新たな取り組み～

- 現在取り組んでいる主なテーマについて
※赤字部分について次ページより詳細記載

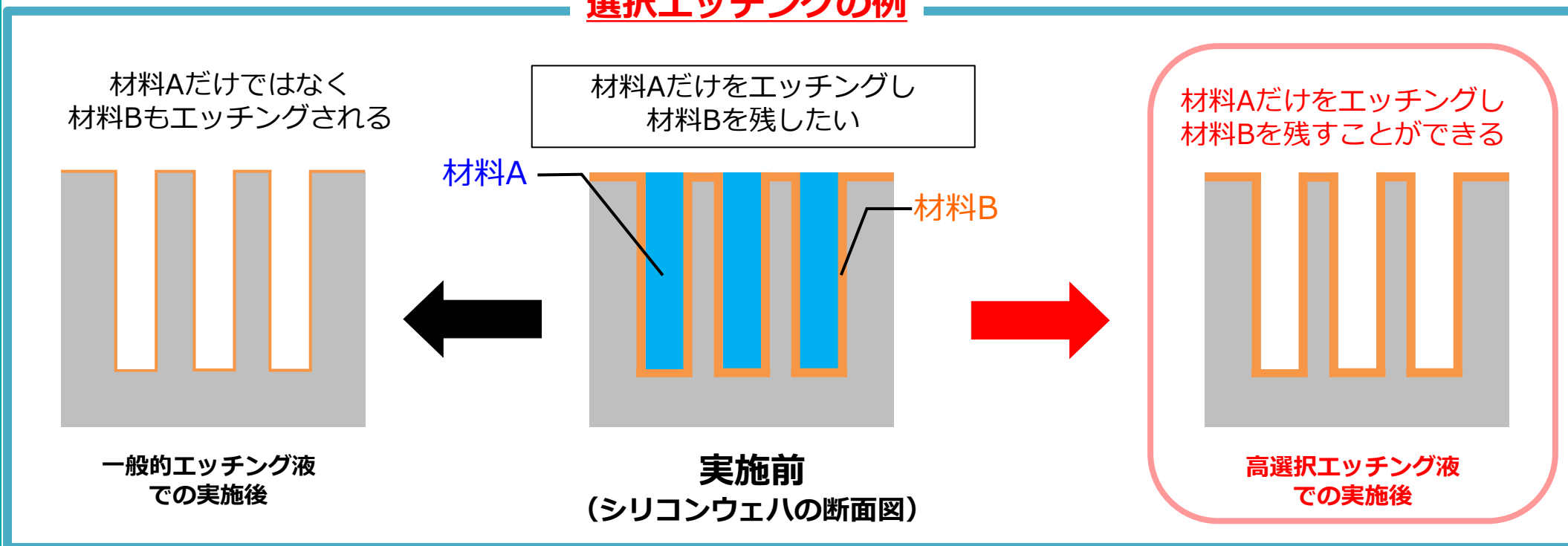
分野	テーマ
半導体	●半導体デバイスの微細化に対応する薬液の改良 ●半導体製造工程の改善に繋がるエッチング液の開発 ●半導体製造に使用する選択エッチング液の改良
エネルギー	●全固体電池用材料の開発 ●リチウムイオン二次電池用添加剤の改良
フッ素化合物の新用途	●細胞培養容器の開発 ●無機フッ化物ナノ粒子の新たな用途開発 ●フロー合成法を用いた少量高付加価値製品の開発

事業紹介 ～新たな取り組み（半導体）～

半導体製造に使用する選択エッチング液の改良

- 選択エッチング液とは、『様々な種類の材料を選択的にエッチングすることが可能』な薬液のこと
- 選択性が優れたエッチング技術は、精密な加工を可能にし、半導体の性能向上に寄与する
- 高い選択エッチング機能をもった当社開発品「HSN BHF」を上回る新しい薬液を開発中

選択エッチングの例



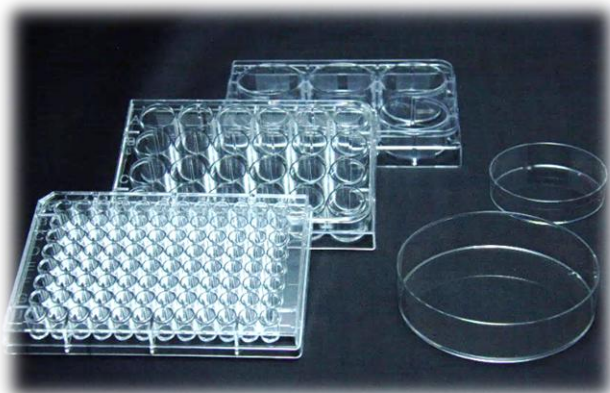
より高い選択性を実現する薬液の製品化に向けた各種評価を実施中

事業紹介 ～新たな取り組み（細胞培養容器）～

細胞培養容器の開発

- 細胞を培養する容器は、再生医療や医薬品開発など幅広い分野で利用される
- 当社開発品は、独自の表面処理技術により細胞の培養に適した表面を形成

<当社開発品>



<細胞の培養>



<再生医療・医薬品開発>



本格的な販売を見据えた取り組み

- ✓ 適用細胞腫の拡大に成功
- ✓ 研究機関を中心にサンプルワークを継続
- ✓ 第48回分子生物学会附設展示会に出展予定（12月）

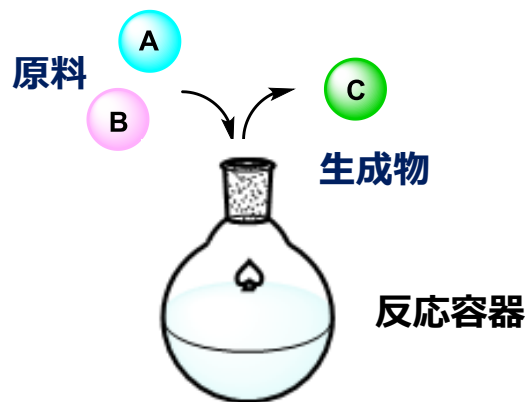
2027年度製品化を目指し、
PR活動を推進

事業紹介 ～新たな取り組み（少量高付加価値製品）～

フロー合成法を用いた少量高付加価値製品の開発

- 独自のフッ素技術とフロー合成技術を融合させることにより、合成効率を向上
- 高付加価値な医薬品中間体やフッ素化試薬などの、含フッ素機能性化合物の開発を推進

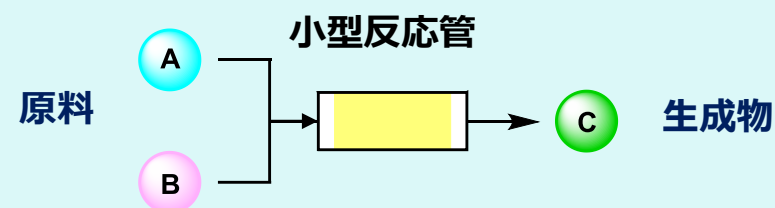
バッチ法（従来の反応様式）



特徴

- ・ 数百 kg ～数 t の大量生産
- ・ 反応容積が大きい
- ・ エネルギー生産性が低い
- ・ 廃棄物が比較的多い

フロー法



特徴

- ・ 数 g ～数十 kg の生産が最適
- ・ 反応装置の小型化が容易
- ・ エネルギー生産性が高い
- ・ 廃棄物が比較的少ない

⇒原料の迅速な混合、精密な温度・時間制御

- ✓ フロー合成技術に着目した取り組みを開始
- ✓ 高付加価値含フッ素化合物の開発を推進
例) フッ素化試薬、医農薬原料etc.

フッ素化技術とフロー合成技術を組合わせ
付加価値の高い製品市場へアプローチ

事業紹介 ～運輸事業～

ブルーエクスプレス株式会社

(HP URL)



運輸事業

輸送業	陸上輸送・海上輸送・鉄道輸送
通関業	輸出入の通関手続き・輸出入貨物の出荷引取り業務
倉庫業	最新システムを満載した〔複合機能倉庫〕を提供
コンテナサービス	ISO仕様の大型圧力容器、IBCサイズの中型圧力容器、UN仕様 IBCコンテナ等を提供するほか、それらの洗浄、整備およびリース等

通関拠点	輸送拠点	海外拠点
本社事務所	仙台営業所	シンガポール
大阪事務所	関東営業所	中国
横浜事務所	横浜営業所	
	清水営業所	
	名古屋営業所	
	本社営業所	
	神戸営業所	
	北九州営業所	



事業紹介 ～運輸事業～

保有車両 (2025年5月現在)

- トラクター (141輛)
- トレーラ (363輛)
 - 20Fシャーシ
 - 35Fシャーシ
 - 40Fシャーシ
 - コンテナ専用シャーシ
 - ウィングセミトレーラ
- タンクトレーラ (8輛)
 - タンクトレーラ
 - ガスタンクトレーラ
- ウィング車 (6輛)
- 温調車 (4輛)
- 平ボディー車 (14輛)
- コンテナ専用車 (16輛)
- タンクローリー (16輛)
 - 専用ローリー
 - ガスローリー
- タンクコンテナ (617輛)
 - ISO【テフロンライニング】
 - ISO【保温】
 - JRコンテナ【テフロンライニング】
- ポータブルタンク (25輛)

車両タイプ一覧



事業紹介 ～運輸事業～

企業価値向上に向けた取組み

1.収益性を重視した取り組みの推進

- 廉価取引を見直し：コストに見合った料金改定や、取引そのものの見直しを進める
- 新規案件の獲得：引き合いへの積極対応、既存荷主への深耕、他部署との連携等による

2. 安定的事業基盤の構築

- 年齢構成を見ながら将来を見据えて採用し、管理者・幹部社員を計画的に育成
- 外部研修を活用しての技術習得や、資格取得を推進
- ニーズに合わせて、タイプ別の車両・容器を確保

3. コンプライアンス体制の継続強化

- ドライブレコーダー、デジタルタコグラフの活用や運行管理業務の見直し等により、危険運転や過重労働の防止を徹底
- 社員教育の充実、関連法規の理解の促進等

<免責事項>

本資料に掲載されている業績見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

本資料に記載された内容は、事前の通知なくして変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。また掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありません。

本資料は、当社事業へのご理解をいただくために作成したものであります。投資に関するご判断はご自身での責任で行われますようお願い申し上げます。